



地域でともに幸せに暮らしたい

～知的・発達障がいのある わが家の子どもの子育て～

黒田 美恵 さん そにとキャンプ親の会「もりびと」



講座4では、そにとキャンプ親の会「もりびと」の黒田美恵さんに、「地域でともに幸せに暮らしたい～知的・発達障がいのあるわが家の子どもの子育て～」と題して、保護者の立場からの思いやわかりのあり方についてお話しいただきました。

診断を受けて

私は、清太郎が知的障がいを伴う自閉症であるという診断を聴き、ショックを受け、はじめの3日間は家のなかでずっと泣いていました。「このままではいけない」「子育ても家事もしなくては」とも思いましたが、すぐに受け入れることができず、悲しみに戻ることもありました。このようなことを繰り返し、やがて「子どものために前を向かなくてはいけない」と思うようになり、子どもの状況に適応し、再起へと心情が変わってきました。

「清太郎便り」の配付

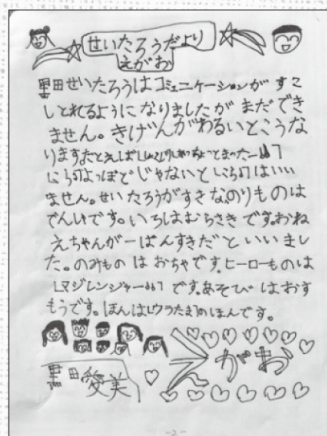
家や施設にこもり、外の世界と触れ合わず、ご近所に迷惑をかけないように育てるのではなく、外に出て、ご近所に迷惑をかけたなら謝り、助けてもらったなら感謝するという育て方をしようと思いました。そして、清太郎が4歳の時に「清太郎便り」を地域の方に配りました。便りの前半に清太郎の特性のことを書き、後半には「地域の中で暮らしたい」という願いを書きました。便りのことを清太郎のお姉ちゃんに話をすると、「私も書く」と言って一緒に書いてくれました。

清太郎便り

いつもお世話になっております。白鳳台の黒田と申します。月で「自閉症」という発達障害と、軽度の知的障害があります。ります皆様に迷惑をかけることもあり、そして助けてからこの様な手紙をご用意させて頂きました。

「自閉症」は心の病気ではなく、生まれつきの脳の障害で誕生しており(発症率は上昇し続けています。)、現在の治療法もありません。また、8割に知的障害を伴います。主な特徴として、社会性、コミュニケーション、想像力などがあるそうです。

清太郎は決まったパターンだと安心して過ごしやすいのが違うなど)とても不安になります。自分の思っている:ず、その気持ちの伝え方が分からず、さらにその状況を説明時があります。この様な時にパニックとなります。



プチトマト事件より

園でプチトマトの苗を植えました。清太郎は、友だちの苗におしっこをかけてしまいました。清太郎は、水をあげている感覚だったと思います。先生は、「絶対しないように約束させました」と私に話をしてくれました。でも、「約束してもまたしてしまう」と思いました。もし、同じようなことを清太郎がすると「約束をやぶった悪い子や」となってしまいます。「そんな時は、『清ちゃんは悪気があってしたんじゃないんだよ。またしてしまったら先生に言ってね』と、相手の子どもに声かけをしてもらいたかったです」と先生に伝えました。「約束」は大事なことだけど、その子ができるのかどうか、どういう言い方をすれば、子どもが一番理解できるのか、考えてもらえたら嬉しいです。

【参加者アンケートより】

- 今日の講座を心待ちにしておりました。一言も逃さないように聞きました。孫の姿と清太郎さんの子どもの頃とが重なり、清太郎さんの写真が孫の顔に見えたり、孫の声が浮かんできたり、胸がいっぱいとなり、涙があふれました。
- 実際の体験に沿ってお話を聞かせていただけだったので、保護者の思いがわかる機会をつくっていただきありがたかったです。地域の方や園のすべての保育士としっかりと連携をとって、子どもを認め、みんなで育てていくという保育をしていきたいと思いました。